

会 議 記 録

会議名称	第1回社会教育委員の会議
日 時	令和4年6月6日（月）午後2時30分～午後4時30分
場 所	分庁舎5階 会議室A（オンライン会議）
出席者	委員 塩練、小澤、荻上、南、檜枝、赤池、天野、内山、笹井 区側 生涯学習担当部長（教育委員会事務局次長）、生涯学習推進課長、 社会教育センター所長、社会教育推進担当係長（社会教育主事）、 教育連携担当係長（社会教育センター社会教育主事）、管理係長、 管理係主査
配付資料	<p><配布資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度第4回社会教育委員の会議 会議記録（案） 2 杉並区教育ビジョン推進計画の策定について 3 令和4年度社会教育関係団体への補助金支出について <p><参考資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 杉並区社会教育委員名簿 2 令和3年度杉並区「教育調査」の実施について（通知）㊦ 3 杉並区教育ビジョン2022 4 杉並区教育ビジョン2022（概要版） 5 すぎなみ大人塾 2022 総合コース「ジブン・ラボ」 6 すぎなみ大人塾 荻窪コース2022 受講者募集 7 F S C（フューチャーサイエンスクラブ）小学生 8 F S C（フューチャーサイエンスクラブ）中学生 9 杉並区区制施行90周年記念 5ストーリーズ 10 人権啓発学習資料 みんなの幸せをもとめて
会議次第	<p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議録の確認について 2 杉並区教育ビジョン推進計画の策定について <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 社会教育関係団体への補助金支出について 2 杉並区教育ビジョン2022推進計画を基にした社会教育の支援方策について 3 次回について

(意見要旨)

- 新委員委嘱・挨拶
- 生涯学習担当部長 挨拶
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 配布資料及び前回会議録の確認
- 生涯学習担当部長 杉並区教育ビジョン2022推進計画の報告
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 補助金交付資料の説明
- 議長 社会教育法に基づき社会教育委員に対して社会教育関係団体への補助金交付にあたって意見が求められているが、資料や説明についてご質問があれば。
- 委員 公立中学校の休日の部活動については民間に委託する方向で変えていくという発表があったが、この予算案の中に含まれているか。
- 生涯学習担当部長 今回の補助金の中に地域部活動に関する経費負担は含まれていません。
- 議長 他に特段の指摘がなければ、今年度の補助金の支出については差し支えない旨の回答をさせていただくがよろしいか。（了承）
それでは、次の議題に入るので説明をいただきたい。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 杉並区教育ビジョン2022推進計画では、「みんなのしあわせを創る」ということを具体的にどのような形で実現していくのか、どう支援するかということが行政として重要な課題になってきたと捉えています。幸せや生きがいは第三者から提供されるのではなく、そのために自分が努力する、そうした努力していこうとする環境を教育行政が整備するにあたり具体的にはどのような形で実現するか。その意味で社会教育、社会教育行政の支援方策の重要な課題になると思っております。もともと生涯学習や社会教育は、学習者側からの取組があって初めて成立するので、自発性を尊重しながらどのような支援が図れるのか、計画を進めていく上で皆様方のご意見を伺いながらつくっていきたいと考えています。
ぜひ、ここの計画に掲げたことを手がかりとしながら、具体的な地域展開を図るアイデア、感じている必要なことなど、ご意見をいただければと考えています。
- 議長 杉並区教育ビジョン2022は、システム化されている学校教育よりもシステムの外の社会教育で区民全員が教え合う立場、あるいは学び合う立場に立つということを前提としていて、社会教育が果たすべき役割が大きい。その上で、社会教育行政、NPO、市民たちが、社会教育行政、社会教育そのものを盛り上げることが大事になっている推進計画であり、その中で社会教育が果たすべき役割をもう一度考え直してみようということがたくさんある。
学校教育には計画性・連続性が特徴にあることから、今回の計画も前計画からの継続的な面で捉えたとしたら、その中身の本質的なところで認識するまでには至れないのではないかと思われる。引き続き、学校の先生方にご理解いただくということにあわせて、我々非学校教育の側がもっとその教育機能を発揮して、学校でやるようなことも引き受けながらできるようにならないかとも思う。教育委員会には、引き続き学校側に対する周知の徹底や趣旨説明の機会を設けていただくことをお願いしたいし、ぜひ、この推進計画に沿って杉並区の学校教育、社会教育の全体をアップデート

- できる提案やアイデアがあれば意見をいただきたい。
- 委員 この教育ビジョンでは学び合いを強調しているが、そこに到達するのが難しいと思っている。その余裕もない人たちも増えている現状を見極めつつ、何ができるのかをみんなで考えていくことは本当に重要な話だが、人口構成が明らかに変化している社会の中で、はたして社会教育でそこをカバーすることがどう可能になるだろうか。
 - 議長 学校教育は対価を得て仕事をする組織である反面、PTAは、ボランティアな組織である。我々自身が豊かになる、子どもたちを豊かにする観点で、ボランティアに何かできないかという意識を区民に持ってもらうために、どんな仕掛けが必要か。
 - 委員 この教育ビジョンは、教育とは何かを問いかけてきている。もう一つ大きなキーワードが、当事者であると思っている。教育は学校だけではなく社会教育も含めて全体として取り組んでいくものであるが、教育という言葉に知識の獲得ということを重視しがちな傾向が含まれていて、そのため学校に責任があるとされがちだ。人格の形成ということを考えてみた場合には、学校だけでなくいろいろなところで形成していく支援なり手だてを講じていくことが大事になる。だから、この教育ビジョンでみんなが当事者になるということに関しては、腰が引けてしまいがちな当事者意識と教育とは何かという問いを起し考えていく必要がある。
 - 委員 学校教育は、学習指導要領に沿って進めているので学校の責任となる。学校としてやらなければならないことはもちろんのこと、その上で子どもたちや保護者も含めてどういうふうにしていくかを、それぞれの立場で意見が交わされることが必要である。
 - 議長 学校教育の存在意義からすると、子どもの権利の実現という面と、国家、社会に有為な人材を育成するという面が強調されるので、不易の部分子どもたちに伝えていくことが大きなミッションとしてある。それよりもっと大きな部分が、人と人との関わり合いの場、子どもと子ども、先生と子ども、PTAとか他の地域の人たちとの関わり合いの場としての学校である。人間形成というのは、人と人との関わり合いの中で身につけていく。普遍的な価値を将来に伝えるのが学校教育だが、関わり合いの場が学校にはたくさんあって、その中で子どもたちが育っていく。関わり合いの場や機会というものを増やす、膨らますというのが、社会教育の仕事ではないか。子どもたちを社会教育や地域の社会教育の中に巻き込むとかということは、すごく大事なこと。学校、特に人間関係という視点から、学校教育と社会教育がもっと協力し合うことが必要である。
 - 委員 どうしても学校教育、社会教育という既存の枠組みがベースになっているように感じ取れてしまう。「みんなのしあわせを創る杉並の教育」の一番ベースのところに、「子どもも大人もすべての人」と書いてあるにもかかわらず、大人が出てくる場面が既存の教育を取り巻く枠組みの中でしかイメージできない。本来的には、学校教育とか子どもとかということだけではない、ある意味、生涯学び続けるという成人の部分が同列に出るぐらいのことが概念にあって、そのことをチャレンジしていきたいのだが、大人の登場の仕方が、既存の教育を取り巻くシステムの中での登場の仕方しかイメージできないところに、違和感があるように思われる。学校現場の先生方だけではなく、区民という立場で考えたときにも、当事者

というのがイメージできない難しさがある。親の立場でいくと、家庭の親、PTAのメンバーとしての親、大人というのはイメージできても、生涯学び続ける一個人の大人を、この教育ビジョンの中で考えられる人が少ない。大人も人生100年時代と言われつつ生涯学び続ける一個人でもある感覚がリアリティーとしてまだない。逆に、そのリアリティーを実感し既に実践できている人は、いろんなアクションをしたり壁を超えたり、自分の関わりをつくれしたりして生涯の学びが覚醒していくのかもしれないが、逆にまだそこに至っていない人との差が広がっていくのかもしれない。

- 議長 たしかに生涯教育論と生涯学習論の決定的な違いというのは、当事者意識を持つかどうかで、日本では、大人は学ばなくても一生懸命仕事をすれば良く、学びは子どもの仕事という思い込みが少なからずある。
- 委員 学校教育と社会教育は分けなくてはいけないのか。自分は教えているつもりでも、子どもから学ぶことの方が多と思うので、大人も子どもたちに教えることで、こんなことを学べたとか、こういう教え方では駄目だということも含め、お互いが学び合えるような形になればと思う。
- 委員 配布資料の中に「提供されるとか教育されるではなく」、その反対側として「自分が努力するとか環境を整備する」と記載があって、すごく強烈な対比関係、対比構造を意識していることを感じた。自主とか自立、自走とか自由とかということになるろうが、それができる環境をつくりたいということ課題として考えているのだと思った。上から下ではなく、横から横、横断的、アメーバ的、不変ではないものの可変可能などところに対してからできることをしていかななくてはならないのではないのか。教える人と教えられる人の関係から、みんながとか、一緒にとか、誰でもがみたいな言い方によって、それが不易になることではないかと思うし、形式知が暗黙知になるというふうに言えるのではないか。

ある大学の学長が、今、ITリテラシーが大事になって、学校教育でも数学的な知識、統計、解析などをしなければならない中で、先生から生徒ではなく知っている学生が知らない学生に教えるという場、アメーバ的にできる人が教えてほしい人に教えるということをする環境、硬直的でなくニーズがあるならやるといのように、学校の構造自体が変わってきているという話をされていた。学校は、枠組みとして支える、基盤、イントラをつくる、問題が起こったときに裏側から支援する先生がサポートできる体制をつくるなど、それをしてにおいて、それ以外は学生が主体的に自分たちでやる。それをさらに大学から高校へ、高校から中学へと派生して、実際に今起こっていることも考慮しながら、このビジョンの先をイメージしておくことが大事なのではないか。

子どもが真ん中の図、先生と大人、地域と学校で子どもを支える図は、子どもと大人は対等、イコールで、大人が子どもに教えることもあるが、子どもから大人も教わることがある、どこからどこに線がどう延びてもオーケーで、受け取った者がまたそれを誰か次にパスできるみたいな、そういうすごくフレキシブルで自由度の高いものをイメージしておかないといけないのではないか。

- 委員 この教育ビジョンが伝えていくのは、変えていく、変わっていくということ浸透させ、学校は上から下ではなくて、双方向でもいい、いろんな場所でいい、誰もがやっていると、PTAは別に保護者じゃなくても

いい、いろんな方向から少しずつ考え方を柔らかくしていく方策、変化を見せるということかと思う。

- 委員 どこに焦点化するかというのは重要だと思うが、何かシステムをつくと、そこから集約化される人は必ず出てくるので、格差が広がるのではないかとも思われ、その問題を同時に考えていかななくてはならないと思った。かといって、全員がやらなければいけないといった強制的な話ではないが、包摂のことも一緒に考えていきたい。このビジョンの評価や、先日の計画の回し方の説明でうかがった部長の話では、まずやってみて修正していくとのことであったが、これはすごく大事なことだと思う。最初に計画を決めてすべて固めてしまうのではなく今の枠組みを崩すのは難しい話だが、チャレンジしていく機会をつくと同時に、包摂と排除というのは同時に考えていかなければいけないのではないかと思う。
- 委員 中学校という現場から考えると、受験が大きな障害になっていると思う。学校自体も、学校にいろんな人に入ってもらいたいと言いつつながら、本当にそのオーダーにあわせてきちんとしていたかということ、そうではなかった。コロナ後に様々な人たちにいろんな部分で、その経験値、これからの生き方についての示唆を子どもたちに提供することは必要で、学校だけではできる部分とできない部分がたくさんある。文科省が中学校の部活動については外部に委託していくことを表明したが、杉並区もその方向で模索をしている。教員は、今までいろんなことを求められ、使命感を持つことが大事なことだと思っていたが、どこかにお願いしますと言っていくことが大事になってきているし、それを皆さんも受け入れていただき、学校にお越しいただくというのは大事だと思う。学校に対する自分たちが勝手に持っている壁というのがあるので、このビジョンを基にして、みんなが今まで持っていた壁をなくしていく手段を考えていくというのが大事と思う。
- 議長 アメリカの大学には、図書館で借りてきた本をいろんな人と議論したり交流したりするという場、その過程で意見交換をしたり、資料を作ったりというラーニングコモンズというのがあるが、ある種のコモンズ的なものを、学校、学びの場、学校と社会で、共有できるような場、学びの場を提供し合って、そこで何か一緒にできたら、ラーニングコモンズ地域版みたいなものとしてつくれたらと思う。
(途中から出席の社会教育センター所長、生涯学習推進課長 紹介)
- 議長 では、今日の最後に生涯学習推進課長からひとこと。
- 生涯学習推進課長 本日は、会議が重なり遅れての参加で申し訳ありませんでした。先ほど誰が誰に教えるとかという話が出ていましたが、直近のオリンピックのときにスケートボードとかスノーボードの監督は練習会場を取るだけで、技術的なことは教えず選手同士が教え合って磨き合う、ヒエラルキーで監督がいて教えるような組織とは、考えも及ばないような中で学びが生まれている。今回の杉並区教育ビジョン2022では、教え合いと書いてありますけれどもそういうことなのではないかと思っており、学び自体の本質というのも大分変わってきたのではないかと感じております。ありがとうございました。(閉会)